

1 章 調査の概要

1 調査研究の経緯

児童生徒は、様々な集団の中で多くの人と関わりながら生活を送っている。しかしながら、友人間での様々なトラブルが数多く生じている状況が見られ、このことは幼少期からの人間関係の希薄化などが影響しているのではないかとされている。

そこで、平成18年度は、主に学級集団での子どもと子どもの関係に着目し、人間関係に関する意識や行動の実態を把握するとともに、人間関係を築く上での課題を明らかにし、望ましい人間関係を築いていくための課題を明らかにしてきた。

今年度は、昨年度明らかになった課題をより実践的な取り組みにつなげるために、人間関係を築く上で鍵となる子どもたちのコミュニケーションに焦点を当て、学級集団と学級や学年をこえた集団の双方に着目し、望ましい人間関係を築いていくための手だてを考察した。

2 調査研究の目的

児童生徒一人一人の特徴と、友達、教員、保護者それぞれとの関わりを分析して、学級集団と学級や学年をこえた集団の中で、どうすれば望ましい人間関係を構築することができるか、教員や保護者としての有効な手だてを明らかにすることを目的とする。

3 調査の方法

(1) 抽出方法

小学校第2・第4・第6学年、中学校第1・第3学年、高等学校第1学年(全日制)の児童生徒それぞれ300人程度とその保護者を調査対象とし、これを満たせるよう学校を抽出した。

ア 県内市町立小・中学校

市町人口規模別、学校規模別のグループを設定し、それぞれのグループから無作為に学校を抽出し、その学校の該当学年1学級を対象とした。

イ 県立高等学校

全日制高校について、学区・学科別グループを設定し、それぞれのグループから無作為に学校を抽出し、その学校の該当学年1学級を対象とした。

(2) 調査対象

学 年	対象 学校数	有効回答者数(人)		
		児童生徒(男子・女子・未記入)	教員	保護者
小 学 校	第2学年	16	428(224・203・1)	415
	第4学年	16	428(206・222・0)	411
	第6学年	16	428(221・206・1)	401
中 学 校	第1学年	13	393(205・187・1)	366
	第3学年	13	363(184・179・0)	344
高等学校	第1学年	9	351(158・193・0)	313
計		83	2391	868
				2250

注1 性別が未記入の児童生徒についても有効回答とした。

注2 教員の868人のうち、学級担任は628人である。

(3) 調査方法

質問紙により行った。所要時間は15分程度を想定した。

(4) 実施期日

児童生徒

平成19年6月18日(月)～6月29日(金)の期間内で適当な時期を学校が定めた。

保護者

の期間で、児童生徒が実施した後に、児童生徒を通じて配布・回収した。

教員

の期間中で、児童生徒が実施する前の適当な時期を学校が定めた。

4 質問の構成

この調査では、下の表のように、A・B・C・D・Eの領域に分けて質問を構成した。領域の内容と質問項目数は下の表のとおりである。

表 対象別・領域別質問項目数

領域	調査対象	児童生徒		教員		保護者
		小学校第2学年	小学校第4学年～高等学校第1学年	担任	担任以外	
A	児童生徒のふだんのようすに関すること	8	15	14	12	11
B	児童生徒と家族との対話に関すること	6	6	6	6	7
C	児童生徒と教員とのやりとりに関すること	6	8	9	7	0
D	児童生徒同士のやりとりに関すること	5	6	4	2	0
E	学校や家庭での話し合いに関すること	0	2	2	2	0

注1 児童生徒に対するA～Eの質問項目は、小4から高1までほぼ同じである。小2に対する質問については小4のものを簡単な言葉に直し、答えるのが困難と思われた項目を削除した。

注2 教員に対するA～Eの質問項目は、担任、担任以外いずれも同じである。ただし担任以外の教員に対する質問については、答えるのは困難と思われた項目を削除した。

注3 ここでの担任以外とは、小・中学校については、学級担任以外の授業を担当する教諭、高等学校については、学級正副担任以外の授業を担当する教諭を指す。

領域A～Dの質問項目は、児童生徒、教員、保護者の回答をなるべく比較できるようにした。

また、いくつかの質問項目について、「教科の学習」と「教科の学習以外」、及び「学級」と「学級以外の委員会・生徒会・部活動等」を比較できるようにした。回答はすべて選択肢とした。ただし、小学校第2学年の児童については、「教科の学習」と「教科の学習以外」を区別せず質問することにした。

領域Eの1つの項目は記述、もう1つの項目は選択肢による複数の回答を求めた。

5 集計・分析

- (1) 回答のうち有効なものについて単純集計を行った。その結果から表やグラフを作成し、考察した。単純集計のグラフは3章に、その実数については5章に掲載した。
- (2) 質問項目間の関係を見るためにクロス集計を行い、考察した。そのグラフは4章に掲載した。